

熱性けいれんのSOS



熱性けいれんとは？

38度以上の発熱に伴って乳幼児（生後6ヶ月～5歳、特に1歳～1歳半）がけいれんを起こしてしまう病気です。

およそ10人に1人が経験するため、珍しくない病気です。

ご家族に熱性けいれんの経験があるお子さんでは、より多く発病します。

どんな症状？

- ☐ 身体がこわばったり、手足がピクピク・ガクガク
- ☐ 目が上転、白目、目を見開く
- ☐ 意識が消失、呼びかけに反応しない
- ☐ 意識が普段と違い、ぼーっとしていたり、泣かない。
- ☐ 多くは5分以内に止まる。5分以上は危険なサインかも。



けいれんが止まると普段通りになります。

- ☐ 顔色が良くなる
- ☐ 手足の力が抜ける
- ☐ 目を閉じて眠る
- ☐ 泣き出す

* 普段通りに戻らないと、要注意です！！

熱性けいれんが起こったら・・・

★やってほしいこと★

- ☐ 落ち着いて、安全な場所に移動する
→ケガをしないように。
- ☐ 顔を横向きにする
→吐いた場合は、吐物がのどに詰まらないように。
- ☐ 服（特に首もと）をゆるめる
→息がしやすいように。
- ☐ けいれんの様子（発作の様子や持続時間）を観察する
- ☐ 余裕があれば動画を撮る



×やってはいけないこと×

- ☐ 口にタオルや指を入れる
→窒息のリスク
- ☐ 抱きしめる
→息がしづらくなるリスク
- ☐ 強く揺さぶって起こす
→脳出血、首の骨の骨折のリスク
- ☐ 吐いているのに仰向けのまま
→誤嚥や窒息のリスク



救急車を呼ぶタイミング

- ☐ 5分以上けいれんが続く
- ☐ けいれんが止まっても意識や呼吸が普段と違う、麻痺がある、顔色が悪い
- ☐ 1日で2回以上の発作があった

判断が難しい時、悩んだ時、パニックでどうすればわからない時はどうすればいい？

- ☐ #7119（救急安心センター）に電話
- ☐ #8000（子ども医療電話相談）に電話
- ☐ 救急車を呼ぶ準備をして様子を見る 5分以内にけいれんが止まり、普段通りになった
→自宅の車でかかりつけ医などの医療機関を受診してください





熱性けいれんのギモン



Q 予防方法はありますか？

ダイアアップ®

カロナール®

アルピニー®

アンヒバ®



A 予防方法がありますが、完全に予防することはできません。

「15分以上の長いけいれんが続く発作があった」などの条件を満たせば「ダイアアップ®」というお薬でけいれんを予防することがあります。しかし、完全に予防することはできません。さらに、副作用の問題もあるため熱性けいれんを起こした全ての子どもさんに勧められる方法ではありません。

解熱薬（カロナール®、アルピニー®、アンヒバ®）については、けいれんの予防効果はありません。解熱薬はあくまで熱のしんどさを和らげるために使います。

Q 後遺症はありますか？

A ほとんどありません。

5分以内の熱性けいれんの場合は、知的障害、てんかん、運動障害などの後遺症はほとんどありません。

Q 病院ではどんな治療をしますか？

A けいれんを止めて、お子さんの安全を確保します。

お子さんの状態を確認し、けいれん発作時の状況を詳しくお聞きします。必要があれば、血液検査、髄液検査、脳波検査、頭部CT、MRIなどの検査を行います。状況に応じて、酸素投与、けいれん止めのお薬の注射、点滴などを行います。

Q 再発率はどれくらいですか？

A およそ3人に1人が再発します。

ただし、年齢や家族歴などのリスクによって再発率はさまざまです。



Q どんな時に入院が必要ですか？

A 施設によって異なります。

多くは、抗けいれん薬の注射をした時、髄膜炎などの危険な感染症を疑う時、脱水の程度がひどい時、意識障害が続く時など、必要があれば入院の適応となります。



このパンフレットにないことでも、どうぞ遠慮なくお尋ねください。私たちが丁寧にお答えします。

